

地域活性化の推進

～地域で学術、及び、学術のあり方を考える～

**地域における市民巻き込み型学術
とシチズンサイエンスを議論
(2018年12月1日 弘前)**

**市民と科学者が“つながる場”の創出
について議論
(2019年3月2日 福岡)**

公開シンポジウム
地方における若手科学者を中心とした学術活動の活性化
～シチズンサイエンスを通じた
地方課題解決への取り組み～(青森県)

地方における若手科学者を中心とした学術活動の活性化
シチズンサイエンスを通じた地方課題解決
～市民と科学者が“つながる場”について考える～



日時:平成30年12月1日(土)13:30～16:30
場所:健康未来イノベーションセンター
(弘前市本町 弘前大学本町キャンパス)
参加申し込み不要・参加費無料



日時:3月2日(土) 第一部 13:00～17:00
第二部 17:30～19:00
場所:(第一部)電気ビル本館地下2階・7号会議室
(第二部)電気ビル共創館3階・BIZCOLI
*地下鉄七隈線・渡辺通り駅から徒歩直結



参加費:無料 定員:80名(事前参加申し込み推奨)

市民と向き合うことで地域課題の解決に取り組む行政や、地域で長らく科学コミュニケーション活動に取り組む方々を交えて、市民を巻き込む新しい学術のあり方について議論し、地域だからこそ生きてくる市民と学者の共創について考えます。

第一部(講演会&公開討論) (基調講演、話題提供後に討論を予定)

【基調講演】

「オープンな情報流通によって変容するシチズンサイエンスの可能性」
林和弘(文部科学省科学技術・学術政策研究所 上席研究官)
「シチズンサイエンスは学術研究をどう変えるか」
中村征樹(日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、大阪大学全学教育推進機構准教授)

参加申し込みはこちら



【話題提供】

地方を舞台とするシチズンサイエンスの可能性 ー福岡での取り組みを中心としてー
「Society5.0の実現に向けた福岡市の取り組み:実証実験フルサポート事業による先端技術を活用した社会課題の解決」福岡市総務企画局企画調整部Society5.0担当
「産学官民の共働・共創の場「福岡ヘルス・ラボ」～楽しみながら健康になれるまちづくり～」福岡市保健福祉局健康先進都市推進担当
「地域におけるサイエンスカフェ活動から見える市民巻き込み型学術の可能性」
吉岡端樹(九州大学大学院理学研究院 准教授、サイエンスカフェ@ふくおか 運営者)
「サイエンスパブ in 福岡:市民と学者の“ガチだ”が気軽な対話”から生まれるもの」
山岡均(国立天文台天文情報センター)



第二部(サイエンスカフェ) (定員40名:要・事前申し込み、別紙参照)

市民が参画する新たな研究スタイル「シチズンサイエンス」を通じた、地方課題の解決の可能性を探ります。

【基調講演】

「オープンな情報流通によって変容するシチズンサイエンスの可能性」
林和弘(文部科学省科学技術・学術政策研究所 上席研究官)

「シチズンサイエンスは学術研究をどう変えるか」
中村 征樹(日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、大阪大学全学教育推進機構准教授)

【話題提供】

地方が抱える課題を解決するシチズンサイエンスの可能性
ー青森県での健康教育促進を通じた短命県返上への取り組みー

「地域課題解決を通じて新産業創出をめざす弘前大学COIの基本戦略」
村下公一(弘前大学COI研究推進機構教授、弘前大学COI副拠点長(戦略統括))

「市民と課題に向きあう、健康リーダー育成」
沢田かほり(弘前大学医学研究科助教)

「市民と共に創るー地域食材の良さを生かした食品開発ー」
前多隼人(弘前大学農学生命科学部准教授)

総合司会:高瀬聖吉(日本学術会議連携会員、若手アカデミー幹事、自治医科大学医学研究科教授)

シンポジウム終了後、同じ会場において、サイエンスカフェ「シチズンサイエンスを通じた地方課題解決への取り組み」を開催します。(16:30～18:00)。



シチズンサイエンスの現状や将来展望、及び、進め方のヒントを参加者に提供することができた。また、地域で科学コミュニケーションに取り組む方々も交えて議論を行うことができ、より地域における発展的な活動に向けての議論ができた。

我々の取り組みに興味を持ってくれた日本科学未来館(実証実験の場を提供して研究者と市民が直接絡める場を提供している)からは、同じく実証実験の場を提供する福岡市に関する問い合わせがあった。今後、つながりが深まり各地でこのような動きが活性化される事例につながることを期待したい。また、参加者から関連するテーマで講演の依頼があるという波及効果もあった。

